

令和7年度小平市立小平第十二小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

国語全体の正答率は全国平均と比べて、1.8ポイント下回った。全国平均と比べて大きな差は無いが、「話すこと・聞くこと」や「読むこと」の問題で正答率が低かった。言葉の特徴や使い方については、全国平均よりも正答率が高かった。

課題

「話すこと・聞くこと」、「読むこと」の学習では、必要な情報を捉えたり、相手の意見と比較したりしながら自分の意見をまとめることが課題である。普段から自分の考えを構築するために、根拠を明確にして考える習慣を身に付けられるようにする。

学校で取り組む具体的な改善策

昨年度から、国語科について校内研究を進めており、今年度は「読むこと」を通して伝え合う力を育むことに重点を置いて指導法の改善を進めている。文章を通して児童が必要な情報を適切に読み取り、そこから自分の考えを広げたり、深めたりすることができる場面を授業の中で設けていく。また、言葉の使い方等については、朝学習などを通して日常的に取り組むことができるようにしていく。

【算数】

状況の分析

算数全体の正答率は全国平均を1.0ポイント下回った。全国平均と大きな差はないものの、特に、解き方を説明したり、答えを導き出した理由を記述する問題で正答率が低かった。また、はかりや数直線の目盛りを読む問題において無回答率が高かった。

課題

面積や体積を求める学習では、単に公式を暗記して適用させるだけでなく、その公式を導き出すための過程を理解することが課題である。また、単位の換算や分数の目盛りを読むことに関しては知識だけでなく、日常の場面と関連付けて応用する力を身に付けられるようにする。

学校で取り組む具体的な改善策

計算力については、今後も朝学タイムや十二小タイムを活用して反復学習を継続する。それに加え、分数のしくみや単位の換算については学習者用端末を用いて視覚的に理解できるようにする。また、解き方を説明できるようにするためにペア学習やグループ学習を生かす。言葉で伝え合うことを第1段階とし、第2段階では、文章や図などを使って記述できるよう発達段階に応じて指導する。

【理科】**状況の分析****課題**

理科全体の正答率は全国平均を 1.9 ポイント上回った。どの領域でも全国平均を上回る結果となり、特に「生命」を柱とする領域は、全国平均より 4.1 ポイント高かった。

全体の正答率は、都平均を 0.1 ポイント下回った。特に「地球」を柱とする領域は、都平均より 1.9 ポイント低かった。

「粒子」や「地球」を柱とする領域の正答率が低いことから、より抽象的な学習内容に課題があると考えられる。

都平均よりも「思考・判断・表現」の問題の正答率は、1 ポイント低かった。問題解決の過程の中で、児童が自分の考えを表現する機会を充実させていく必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

学年が上がるにつれ、目に見えない抽象的な概念の学習が多くなる。実験方法を児童と吟味することや、ICT を効果的に活用することで、理解が深まるようにしていく。

また、問題解決の過程を重視した授業展開を行っていく。その中で、ノート指導を丁寧に行い、児童が自分の考えを表現する機会を充実させていく。特に考察の場面では、考察カードを活用し、苦手意識がある児童も取り組みやすいようにしていく。

【質問紙】**状況の分析****課題**

「国語の勉強は得意ですか」「国語の勉強は好きですか」の質問では、全国や都の割合より肯定的な回答が 10 ポイントほど少なかった。一方、「授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか」では、94%の児童がほぼ毎日や週3回以上と回答している。ICT 機器の活用については、全国より高い傾向にあった。

児童が興味をもち、楽しみながら国語の学習を進めることができるよう、指導法を工夫・改善し、学習意欲の向上を図る。

また、自分の考えを表現することに課題がある。自分の考えを書き表したり、学習を通して分かったことを伝え合えるよう ICT 機器を効果的に活用する必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

ペアやグループなど学習形態を工夫したり、児童が学習したい題材を自ら選択できる児童選択型学習を進めたりすることで、児童が自ら計画を立て、実行する姿勢を授業において育てていく。また、学習者用端末に入っている学習ソフトを活用し、友達と考えを共有したり比べたりすることで、自分の考えや意見を分かりやすく伝えられるようにする。分からないことがあったときにすぐ調べたり、授業内で画像や動画、音声等を活用したりすることで、学習内容がより理解できるよう指導の工夫を図る。さらに、学習習慣を定着するため、学習支援ソフトを活用することや、反転学習など家庭学習を工夫していく。